

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200784		
法人名	社会福祉法人 常緑会		
事業所名	星空の都グループホームふるさと	ユニット名	西館
所在地	宮崎県都城市豊満町2642-1		
自己評価作成日	平成30年7月30日	評価結果市町村受理日	平成30年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4570200784-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4570200784-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年8月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

星空の都グループホームふるさととは、都城市の特別養護老人ホーム星空の都なかごうの敷地内にある。ホールや居室からは南側に金御岳の山々からその山裾に広がる田園風景が望めることが出来る。入居者の皆様と、窓から眺め、あるいは外に出かけて眺めてもらい、季節を感じてもらっている。地域との交流も大切にしており、隣接されているデイサービスセンターふるさとやグループホームふるさと西館、東館と小さな地域の交流や地域の保育園児や小学校の児童との交流等地域とのつながりを大切にしている。また、残存能力を活かしての生活を大事にし、長年にわたり行ってきた、家事(調理、洗濯)等一人ひとり役割が持て、利用者が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができ、一人ひとりに合った生活が送れるよう、また、その家族も同時に安心できるようにスタッフ一人ひとりの感性を大切にしながら力を合わせ知恵を出し合いながら日々ケアに取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人全体の理念やホームの理念を定めており、より具体的な取組を「年間目標」として職員全員で検討し取り組んでいる。自治会へ加入しホーム便りを回覧したり地区行事への参加を行うなど地域との交流も図れている。職員の意見や提案を大事にし「まず、やってみよう」を合言葉にいろいろなケア方法や運営の改善に取り組んでいる。重度化や看取りは入居時から説明し定期での意思確認を行うなど利用者・家族の意思を尊重した取組を実施している。心身の状態により浴槽に浸かれない利用者の為に浴槽の昇降機やストレッチャーを新規導入し少しでも利用者が安楽に気持ちよく入浴が出来るように取組むなど利用者の日々の生活での一瞬一瞬を大事にするよう取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで作成した理念を掲示し、毎朝ミーティングで唱和し共有している。地域の行事等参加し交流を図っている。2か月に1回、通信を配布して活動内容を公開している。母体施設も地域の公民館へ加入し地域活動に参加している。		理念は年1回振り返り現状に即しているか確認すると共に年間目標を毎年定めて、より具体的に取組めるようにしている。毎朝ミーティングでの唱和や指導を行い理念の確実な実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は地域の農協やショッピングセンター、食堂へ、買い物や食事に出かけたり、行事や祭り見学にも参加して交流をしている。又、毎日の食材を地域の商店へ注文し、配達してもらい交流を図っている。		自治会へ加入しホームの活動報告を回覧している。中学校の職場体験の受け入れや地域の文化祭への出品、近くのスーパーへの買い物等、地域との付き合いを大事に交流を行うよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回「ふるさと通信」として地域の回覧板にて配布してもらい、活動内容を報告しながら、認知症の人への理解や支援の方法を地域の人々に発信しているが、活かされているかはまだまだ不十分である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族からの要望を施設長へ報告し、浴室に昇降機と、ストレッチャーを設置してもらい、利用者のサービス向上に活かしている。		定期的に会議を開催しホームの利用者状況や活動報告を行い、参加者から提案された意見を検討している。提案により利用者の身体状態に合った福祉機器の導入に繋がるなどサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回開催している。運営推進会議に毎回包括支援センター長に参加して頂いており、ホームの取り組みを積極的に伝え、アドバイスなど頂いている。市には議事録で報告したり、申請時に窓口にて相談することもある。		昨年まで運営推進会議へ市担当者が出席していたため顔馴染みの関係があり、不明な点など気軽に相談できる協力関係がある。現在も定期的に市へ推進会議議事録を報告する等連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設にて定期的に研修があり、参加している。基本身体拘束はしていないが、施錠については状態に応じて対応している。スタッフ全員が更に正しく理解し、実践できるよう本年度からはホーム自主研修会を行う計画をしている。		法人全体での「身体的拘束等適正化検討委員会」に管理者が参加し理解を深め、また法人内での身体拘束研修へ職員が参加し復命での勉強会をホームで実施している。	身体拘束の具体的な行為や弊害について今後、ホーム独自による研修会が計画されているので、職員全員が参加し更に身体拘束に対する理解が深まる事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて学ぶ機会がある。利用者内に内出血や怪我等あった時にはすぐに事故報告書を提出しスタッフ全員で原因と再発防止対応を検討し、虐待が見逃される事が無いよう注意を払い、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を、利用されている利用者が2名おられる事から学ぶ機会もあり、活用支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族に理解、納得を得られるよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議参加時や面会時等頂いた意見や要望はホーム内で解決できるものはスタッフで検討したり、施設長に判断が必要な時はその都度報告し出来るだけ運営に反映できるようにしている。	運営会議への家族の参加があり意見や提案が行われて入浴時の福祉器具の利用などケアに生かしている。普段の面会時や家族の集い・敬老会など行事の時にも意見を伺い、職員で検討出来る限り意見や希望に添えるよう検討している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや日常でもスタッフからの意見や提案がある時は聞いて、反映させている。	管理者は意見や提案に対して「まず、やってみよう」と職員意見を尊重する姿勢や、朝のミーティングやケア時など何時でも意見や提案が言えるよう取り組んでいる。内容により職員会議で検討を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフト作成時は、希望休を入れたり、個々の意見をケアに取り入れたりして、働きやすく、やりがいを持てるよう努めている。労働時間や給与は代表者が管理している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修計画は介護長が決めて参加している。施設内では定期的に研修会があり、参加している。本年度よりホーム内でスタッフのスキルアップを図る為、年4回自主研修会を計画し実施している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の全体研修と県南ブロック研修に参加して、学び、サービスの質の向上に努めている。			



自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接や入居後、ご本人からの要望や意見はもちろん、ご本人の状態や様子を観察しながらサービス導入に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や入居後、面会時などにご家族からの意見や要望等伺いながら、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々合った支援を見極めながら対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	漬物、梅干し作り等、季節の行事や日々の洗濯物たたみ、下膳などの作業を一緒にしながら、入居者の方に教えてもらう場を作ったりして、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の多い入居者の方はご家族と交互に付き添ったり、食事を一緒に摂る機会を提供したり、面会時や電話や手紙で近況報告をしたりして、ご家族とご本人の時間と関係性を大切にしながらともに支えるという関係が築けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の要望で、遠方の親戚や兄弟の方へ写真やふるさと通信を送ったり、入居者のご主人の墓参りにご家族と一緒に出席したりした。	仕事をしていた食堂や以前通っていたデイサービス、自宅へ外出したり、墓参りや冠婚葬祭への参加支援を行うなど馴染みの人や場所との関係継続に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂では仲の良い方、気の合いそうな方と隣に座って頂いているが、一人席が落ち着かれる方もおられる。食器を他の方のも片づけたり、ボタンをかけてもらったりと支え合う環境が出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体施設や別館へ移動になられた方へは時々面会に行き、会話したり、相談や支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自力歩行できる方は、一人一人のペースで昼寝をしたり、テレビを観たりして、ご本人の希望に沿って自由に過ごして頂いている。困難な方は体調に合わせて離床しホールに誘導したり、ベッドで過ごして頂いたりしている。		利用者や家族からの聞き取りや日々の表情・言動など観察し意向の把握に努めている。介護記録に詳細に記載がしており意向や希望の把握が記録として残され活用されるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報やご本との会話や、面会時ご家族からの情報を得ながら、ご本人の生活やなじみの暮らし方、生活環境等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人と関わる中で、その方が出来る事、出来ない事を見極めながら、ケアプランに導入しスタッフ全員でケアに取り組んでいるが、まだまだ十分ではない。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月間ごとにカンファレンスを開催し、ケアプランについて評価、見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。ご家族の参加は得られていないことが課題である。		利用者、家族から意向や希望を聞き取りし3か月に1回のモニタリング、心身の状態について職員全員で検討し介護計画を立案し担当者会議でケアプランを決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各担当が日々の様子やケアの実践などについてケース記録を行っている。日々のケアや気づきについては、毎朝のミーティングで話し合い、情報を共有してスタッフ間のケアに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と一緒に外食した際、近くにご主人の墓があるとのことで墓参りされ、何年振りかの墓参りが出来たと喜んでおられた。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年近くの神社に初詣に行っている。又、地域の農協に花や野菜の苗を買いに行き、選んで頂いたり、季節の花を見に公園へ出かけ、公園内を散歩したり、観光客や地域の方と触れ合ったりして楽しんで頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時よりご家族希望でかかりつけ医を継続して受診されている。月2回の受診の為、ご家族に負担にならないよう、交代でホームスタッフが付き添い受診を行っている。	精神科は協力医療機関を全員が利用している。それ以外の診療科の選択は自由である。受診時、家族や職員が付き添い、医療機関に適切な情報を提供し適切な医療が受けられるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間帯の報告は夜勤者が翌朝に、日勤帯の報告は責任者が夕方に毎日、看護師に報告行っている。又、相談も随時、必要に応じて行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院関係者と情報交換行って、入居者の治療や支援に活かしている。入院時は定期的に面会に行っている。H29・4・18退院されてからは入院された方はおられない。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期に入られた方についてはその都度、ご家族、看護師、医師と連携を図りながら、ご家族の要望に沿った方針を決定し、支援行っている。地域の関係者とは取り組んでいない。	入居時や定期(年に1回)、状態により随時に重度化や看取りについてホームとして可能な事や困難な事、家族の協力など文書で説明し利用者や家族の意向を確認しながら同意を得て取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルが作成してある。又、定期的に施設スタッフ全員参加の研修会や避難訓練時等で訓練行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で年2回、グループホーム独自に毎月1回避難訓練を実施している。地域の消防団員と公民館長に建物の構造や誘導回路を確認して頂いて、協力体制を築いている。	法人の施設と合同で年2回避難訓練を行っている。訓練時の参加はないが地区の公民館長や消防団員に施設内を案内し非常時の協力を依頼している。ホーム単独の訓練は毎月実施し、水や食料の備蓄も3日分確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方を尊重し、その人に合った声掛け、対応を行っている。又、プライバシーについては気を付けて対応している。		目線を合わせての言葉かけやトイレ誘導時に声掛けの配慮、入浴等希望により同性でのケアを行うなど人格の尊重やプライバシーの確保に取り組んでいる。職員全員で適切に出来るように勉強会や個別指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自然な交流の中で、その方の表情や動作を観察し、ご本人のしたいことなど、読み取って、自己決定できるよう努力している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定できる方については、ご本人のペースを大切にして、過ごして頂いている。(昼寝・食事等)			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常にその方らしい服装を心掛けている。外出時や行事の時は、浴衣を着て頂いたり、お化粧品を頂いたりしておしゃれが出来るように支援している。又、衣類購入時にはご本に選んで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはご本人の食べたいものを聞き、お祝い膳を作っている。毎年恒例の家族の集いと敬老会にはバイキング料理を提供しご家族と一緒に食べて頂いている。下膳が出来る方にはして頂いている。		献立は関連施設の管理栄養士が作成しているがホームで調理を行う為、利用者も調理に参加が出来ている。メニューは利用者に関き変更したり2か月に1回程、外食を行うなど食事が楽しめるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立で食事を作り、提供している為、栄養バランスは取れている。お茶を飲まない方には好きなスイカなど果物を提供したり、黒砂糖を混ぜたりして摂って頂いている。毎日摂取量を記入しチェックを行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合ったケアの方法で口腔ケアを行っている。			



自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が多くオムツをしている方でも、定時やご本人の訴え時には誘導を行い、トイレでの排泄を促している。又、排泄チェックでパターンを把握でき、早めに介助することで、パッド使用が少なくなっている。		排せつのパターンを把握してトイレやポータブルトイレでの排せつに取り組んでいる。取組により軽失禁用の紙パンツに切り替わった方もいる。月1回職員全員で検討し排せつの状態について見直しも行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用する前に、ヨーグルトや牛乳を摂って頂いたり、離床時間を増やしたりすることで排便を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	平等に入浴して頂くために、一応入浴日を決めてはいるが、希望や便失禁時には優先的に入って頂いている。お風呂を楽しんで頂くために入浴剤を使用している。		シャワー浴しか利用できなかった利用者も福祉器具の使用で浴槽に浸かれるよう取組んだり、一人ひとりに合った入浴の時間設定やゆず湯など季節を感じられる工夫をしたりして支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のM好きな時間に自室に戻って休まれたり、自室で眠れない方はホールやソファで休んで頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各担当者がそれぞれに責任を持ち服薬管理を行っている。又、薬情書や受診にて理解を深めている。服薬は当番が責任もって行っている。看護師と連携を図っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が出来る事を見極めて、洗濯物たたみや食器の片づけ等役割を持って作業して頂いている。ご本人の好きなものを食べて頂いたり、好きな歌を聞いて頂いたりしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣・季節ごとの花見・地域のお祭り・ご家族との外食と墓参り等出かけている。		散歩やごみ捨て、関連施設への訪問や地域のスーパーでの買物、以前勤めていた職場、お墓参りや初詣、外食など日常的な外出と普段行けない場所への外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	初詣でお賽銭やおみくじを買われたり、病院受診時コンビニで好きなものを買われた。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話あったときはご本人と話が出るようにしている。年賀状を毎年スタッフと一緒に書いて出している。現在、自ら電話を掛けたり、手紙をやり取りできる方はおられない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から自然な光が入り、季節の花を生けたり、観葉植物を置いたり、季節の作品や行事ごとの写真を飾ったりして季節感を取り入れている。食堂のテーブルにはテーブルクロスを作り、絵や造花を飾ったりして居心地よく過ごせるよう工夫している。	刺激にならないよう音や採光、温度等に注意し、季節の花や絵、利用者や職員による作品や行事写真、季節ごとの飾り、見やすい位置にあるカレンダーなど掲示して利用者が居心地よく過ごせるように取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにゆっくりと過ごせるようにソファを置いている。食後には気の合った方同士で座ったり、一人でゆったりと昼寝をしたりして、思い思いに過ごして頂いている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や絵を飾ったり、使い慣れた椅子やシルバーカーなど置いて、ご本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	使い慣れた椅子やたんす、テレビ、家族の写真や絵が持ち込まれている。一人ひとりが居心地よく過ごせるようにホームは持ち込みを自由とし支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に名札を貼ることで、ご自分で部屋に帰ることが出来たり、居室につながる廊下には手すりがついて安全に移動できるよう設置されている。			